

令和5年度「熊本大学女性研究者賞」及び「熊本大学女性研究者奨励賞」に係る表彰式の開催について（熊本大学）

熊本大学は、令和6年2月8日に令和5年度「熊本大学女性研究者賞」及び「熊本大学女性研究者奨励賞」の表彰式を開催した。

本制度は、優れた研究成果を挙げた女性研究者及び将来性のある若手女性研究者を表彰することにより、女性研究者の更なる活躍を支援するとともに、学術分野における男女共同参画推進に資することを目的として平成28年度に創設され、今回で8回目の実施となった。

表彰者数について以前は、「女性研究者賞」「女性研究者奨励賞」各1名だったが、年々、応募数が増えてきたことや専門分野によって評価の視点が異なることから、令和4年度より各賞ともに人文社会科学系、自然科学系、生命科学系の3分野それぞれから1名を選出することにした。また、リカレント教育を推進するために、若手研究者の表彰である「女性研究者奨励賞」は、年齢ではなく研究歴での制限とし、産前・産後の休暇、育児休業等で中断した期間を除く研究歴が18年未満の若手研究者を対象としている。

熊本県内の女性研究者及び熊本大学を卒業・修了した女性研究者を対象に昨年12月から今年1月にかけて公募を行い、厳正なる選考の結果、顕著な研究成果を有し、ロールモデルとして推奨するにふさわしい人格と識見を有する研究者を対象とした女性研究者賞には、楊萍氏（熊本大学大学院教育学研究科・教授）、副島顕子氏（熊本大学大学院先端科学研究部（理学系）・教授）、河村佳見氏（熊本大学大学院生命科学研究部（基礎系）・助教）が、将来性が期待できる女性研究者奨励賞には、友岡史沙氏（熊本赤十字病院・看護師（熊本大学大学院保健学教育部・博士後期課程在籍））、寺澤有果菜（熊本大学大学院先端科学研究部（工学系）・助教）、人羅菜津子氏（熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）・講師）が選出された。

表彰式では、小川久雄学長から、「今後、この表彰制度を、熊本県全体および熊本大学出身の女性研究者の研究力向上に繋がるものとして発展させていきたい」と挨拶があり、受賞者には、表彰状、楯及び副賞が贈呈された。

引き続き、被表彰者による研究発表会が行われ、受賞者はそれぞれの専門分野における現在の研究と将来の研究計画について発表した。



※記念撮影

前列左から、寺澤有果菜氏、副島顕子氏、河村佳見氏、小川久雄学長、楊萍氏、友岡史沙氏、人羅菜津子氏

後列右から2番目、前田ひとみ副学長（ダイバーシティ担当）

後列右から3番目、大谷順理事（研究・グローバル戦略・キャンパスミュージアム担当）